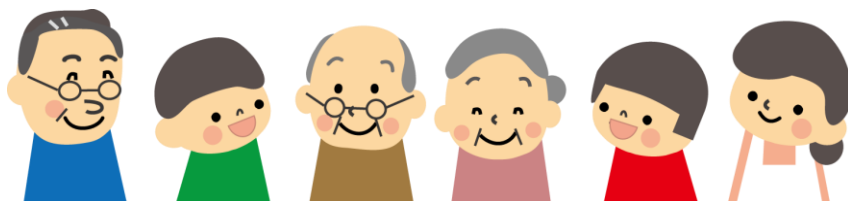


田無スマイル大学 フューチャー・セッション@西東京

「10年後、わたしたちがもっとワクワクする まちについて話してみよう！」

第一回テーマ「未来を担う子ども」についての報告



日時：11月4日（日）10：00～13：00、交流会～15：00

場所：障害者総合支援センター「フレンドリー」多目的ホール、託児2C



進行役対話ラボ紹介
さあ始まり、始まり
少々緊張ぎみ



交流会
皆打ち解
けて、2
ヶ月の赤
ちゃんの
傍に自然
に集まる



主催者挨拶

主催：田無スマイル大学実行委員会 共催：対話ラボ
後援：ソーシャルグッド西東京、西東京市、西東京市社会福祉協議会

1. 参加人数

- 参加者：42名（スタッフ8人、ゲスト3人を含む）
- 託児：子ども5人、ボランティア4人
- 参加者の構成：男性24名、女性18名（大学生1人、事業主2人、行政の人5人、65歳以上8人、5歳以下のお子さんのいる人9人、他地域の人8人）（2ヶ月～80歳）

2. 大まかな流れ

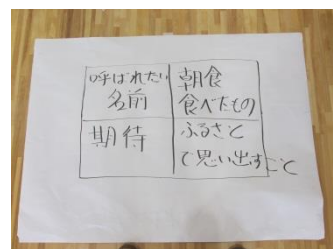
① アイスブレイク

（気持ちを融かす：今日ここまでにかかった時間）



② 4人ずつ自己紹介

- (ア) 呼ばれたい名前
- (イ) 朝食で食べたもの
- (ウ) 期待
- (エ) 「ふるさと」で思い出すこと



③ 分科会

（すでに子どもをキーワードに何か始めておられるゲストのお話をファシリテーター付で聴く）3組に分かれて話を聞く

- (ア) 「市民放射能測定所 あるびれお」の土方隆一さん（ファシリテーター：岩嶋）

(イ) 「子どもの広場」の小林弘子さん（ファシリテーター：板垣）

(ウ) 「西東京パパクラブ」の太田洋芳さん（ファシリテーター：高田）



ファシリテーターがゲストと打合せ

(ア) 「あるびれお」土方さんのお話（岩嶋）

にしとうきょう市民放射能測定所「あるびれお」は、今年6月から活動を始めました。

代表の土方隆一さんは、昨年3月11日の東日本大震災以前は「なにかのために署名活動したり、市民活動したりしたことはなかった人」だそうです。福島原発の事故が西東京市にも大きな影響を与えていることを知り、小学生のお子さんを持つ一人の父として個人で線量計を購入し、測定した数値をブログで公表していました。その活動が知られていき、周辺学区の数値を測ってほしいというように活動の輪は広がっていきました。

さらに、市内の小児科医の山田真さんと出会います。山田さんは事故後、「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」を立ち上げ、福島市や都内避難者の子どもたちの健康相談を続けている医師です。今年3月には、子どもたちを内部被ばくさせないために安全な食べ物を食べてほしいと、個人で「ベラルーシ」ATOMTEX社製測定機を購入しました。

土方さんは「お会いした時、初対面なのに『これ、みんなで使ってよ』といわれて感動しました」。その熱意を受けて、土方さんは自宅を改築し「市民放射能測定所 あるびれお」を開設しました。

平日は会社員として「フォークリフトに乗っています」という土方さん。測定は約20名のボランティアとともに土・日曜日に行っています。

分科会では、福島原発事故の汚染マップや測定の様子とその結果を示した2枚のパネルを使って活動を説明してくれました。参加された方々はとても熱心に土方さんの活動を聞いていて、分科会終了後、土方さんに直接、質問される姿がありました。



(イ)「子どもの広場」小林さんのお話（板垣）

○今やっていることの概要・気付き：

「子どもの広場」は、2002年4月から、自宅を月に2、3回開放して活動をしている地域の中の遊び場のようなところです。おもちゃが大小200以上、絵本や児童書等合わせて500冊以上が棚にあり、自分の好きな遊びを楽しめるようにしている。

活動で大切にしているのは、「楽しさの共感」。子どもと一緒にでもお母さん自身が楽しんでほしい。親自身が楽しいと子ども達も安心してのびのび遊べることに繋がっていくのだと信じている。

幼児から小学生までが同じ場で遊び、その中で、子ども達も親も関われる場となっているし、スタッフも参加者から元気をいただき、地域の中での共育ちを実感している。

○昨日の工作教室での事例紹介：

子ども2人連れの参加者。お母さんが1人のお子さんと一緒に工作ができるよう、スタッフがもう一人の子どもと一緒に工作をします。途中で別のおもちゃで遊び始める子どもとはスタッフが一緒に遊ぶ。参加者ひとりひとりのその時の気持ちを受け入れて、みんなで一緒にその場で楽しく過ごした。子どもが伸び伸び遊べるためには、お母さんたちに楽しさを発見してもらって、夢中になってもらうことだと気付いた。（お母さんが、子どもにつきっきりでなくて良いと感じ、ほっとできる。）大人が安心していることが、子どもの安心に繋がると思っている。

○小さいおもちゃ2種紹介：

○その他：

参加できない方には、「子どもの広場通信」で活動状況の報告をしています。

また、公民館活動で一緒になった仲間と「子ども子育て応援プロジェクト」をたちあげ1月と3月に講演を計画しています。1月はまちかど保健室の喜多先生のお話です。

○ファシリテーターの感想

禁止や強制、決まりはなくても、おおらかに見守り、受け止める気持ちが、小林さんとスタッフにあり、それは、何か問題が起こっても否定することなく立ちふるまわれる技に繋がっていると、お話を聞いて思いました。その気持ちが広場いっぱいになり満ち満ちていて子どもも大人も安心してすごせる安全な居場所になっているのでしょう。



(ウ)「西東京パパクラブ」太田さんのお話（高田）

太田さんの自己紹介も兼ねて西東京市との関わり、「西東京市パパクラブ」に入った経緯、そこで活動して見えてきた課題、目指すことを話していただきました。

3年前に子どもが生まれたのを機に他地域（中野）から西東京市に引っ越してきました。妻が出産で退職し地域の活動を始め地域の母親たちのコミュニティを作っています。その時、父親同士のつながりがないことに気付きます。自分自身仕事中心で地域は寝に帰る場であり今も状況は変わらないが、妻の影響を受け地域と関わり自分も地域で楽しむことが子どもにもいい環境につながると思い始めます。

自分の住むマンション（800世帯）の自治会事務局に1年広報としてかかわります。まず自分のマンションのコミュニティの活性化をおこない、楽しいところにしていきたいという思いからです。このイベントで「パパクラブ」の活動を知り仲間に入りました（活動して1年）

「パパクラブ」の活動では正直男性同士の会話は盛り上がりませんがその後の飲み会と言う場でざっくばらんな話ができます。2012年度市の新規チャレンジ事業として全6回講師を呼んでの「パパスクール」を開催し多くのテーマを学びました。

父親の参加は部分的で、奥さんや子どもに着いてくるような感じで、主役として関わっていないのが現状です。

目指すのは、父親が自らイベントを起こすのが普通で父親同士のつながりが活性化していくことです。このパパクラブが発展していくというよりこのようなグループが各地域にできることによって、参加の入り口を増やしたいです。

ここで参加した方たちに各自の育児参加、地域の関わりを聞いてみたい、と投げかけます。

（則武さん）自分は地域に興味があるので積極的に子育てや地域活動に参加しているが興味を持たない人は情報にも行動にもつながらず、その格差がある。



④ 感想

4人ごとのテーブルで感想を述べ合う（ゲストは入らない）

⑤ ワールドカフェを3ラウンド実施 (ルールの説明。ゲストも参加)

(1) 「子どもたちがイキイキとしていられるには、何が大切だと思いますか」

(2) 「子どもたちがイキイキと暮らせるのは、どんなまちだと思いますか」

(3) 「10年後、子どもたちがイキイキと暮らせるまちになるために、私たちにできることは何ですか」

という3つの問いについて、机を移動しながら話し合い。



⑥ ハーベスト (収穫)

今日一日を振り返り、それぞれ感想をポストイットに貼りつけ、各テーブルごとに、話し合ったのち、特に、全員に話したいことがある人は、挙手して話した。

ポストイットに書かれていることを書き写すと、以下ようになります。ただし、前後が分からないので、意味が分からないものもあります。また、似たような書き出しもありますが、敢えてそのまま書きだしてあります。

(1) 子どもと大人・親の在り方

- 感じたこと：親の在り方を話題にした発言が多かった
- 子どもがイキイキするため、まずは大人がイキイキする。
- 周りの大人が元気だと、子ども達が大人になるのが楽しみになる
- 親は子どもの鏡
- 基本は、夫婦間でお互いを認め合い理解していく
- 親がイキイキしなければ、子どもはイキイキできない
- 子どもは大人の真似をしたがる→大人がイキイキしている？



- 大人になったらできることを示す→それが子どもの夢になる
- 大人のイキイキが子どものイキイキへとつながるはず
- ゆるい町、親がゆったりできるとこどももゆったりできる
- 子どもと同じ目線、対話の継続
- 親がきちんとしなければという思いにしばられている。
- やさしい暴力（親の期待に応えようと子どもが委縮）に風穴を開ける！
- 大人同士のコミュニケーションが大切
- 親や周りの大人が笑顔で生きていくこと
- 親が子どもに不安を与えない
- 子どもがイキイキするためには、まず、お父さん、お母さんが（イキイキするべき）
- 地域で子どもがイキイキ過ごす街づくりのためには、「しつけ」「ルール」が（大切）
- お父さんに言いたいことをがんばって話した中の男の子のエピソードに感激！聞いたお父さんも凄い！ ちょっとうるうるの話
- 「大人は子供に気を使うべき」という言葉に、なるほどと目からウロコ

(2)子どもの判断力を大切に

- 考える力、生きる力
- 判断能力を育み
- 子どもに関心を持つこと、ただし干渉はしないこと
- 子どもはちゃんと考えている。親の価値観を押し付けない。

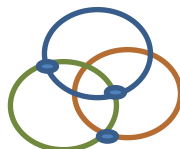
- 良い人、良くない人について、一律的な判断をさせない
- 人と同じでなくて良いということを認め合う世界に
- いじめ問題。悪いことは悪いと言おうよ！（社会全体）
- 子どもが自分で考え判断する力を持つ
- （子どもが）自分で体感して経験するように・・・
- 子どもが集まれるもっとゆるやかな場を！
- 答えが一つじゃないことを分かってもらう
- 子どもにヒントを与える
- 民間による子どもの遊び場づくり（ルールを子ども達が決める）
- 農地や商店街の空いたところを民間主導で自在に遊べる

(3)学校の門戸を開く


- 子どもの家庭でのしつけと学校教育
- 地域の人々が学校の門戸を開かせて、いろいろな世代の人たちが学校と共に育てていく
- 親と学校だけでない第三の場
- 学校以外の子どものグループが大事（違う学校の子どもでも、駄菓子屋などでは一緒に遊ぶなど）
- 学校の門戸を広げ、皆でかかわる

(4)つながり、まちづくり

- グループ間のつながり、コミュニティ同士の結びつきを意識して活動をしようと思う。ハブになる人が重要。



- 相互の活動を紹介する場を多くつくる
- 持ち帰り：人の輪（つながり、サークル）が重なりあうことを意識する
- 相手の立場になって話すように
- 誰でも声をかけられる、声を交わすまちへ
- 子どもにとって、まち中の人自分が自分を大事にしてくれると感じる人々の住むまち
- あいさつが重要
- やっぱり一人ひとりが出しゃばればよいだけ。変えるのは人間の力。社会資源は人間。物じゃない、金じゃない、組織じゃない。{人間} ヘンなおじさん、おばさんが一杯の街。トッパモン（突破者）の暮らす街。ヘンなヤツが最高の街！
- どんな立場であっても、子どもの安全を守ることは共有して欲しい
- 小学校に入れば行政サービスや保護者のつながりがあるが、その前が空白
- 興味のあるもの同志が、興味のあることをいかに広く発信させ、共有していくかがテーマかと
- ハードとソフトの両方を整える

- 時間と場所、そして日本が失ったコミュニティを取り戻して作り直すこと。大人と子どもが一緒にすること。
- 親子が心を開いて参加できる場所が大切
- 自分の子供だけ見る親でなく、心は離れないが、広く自由にさせる
- 
- 託児所を絡めた場づくり

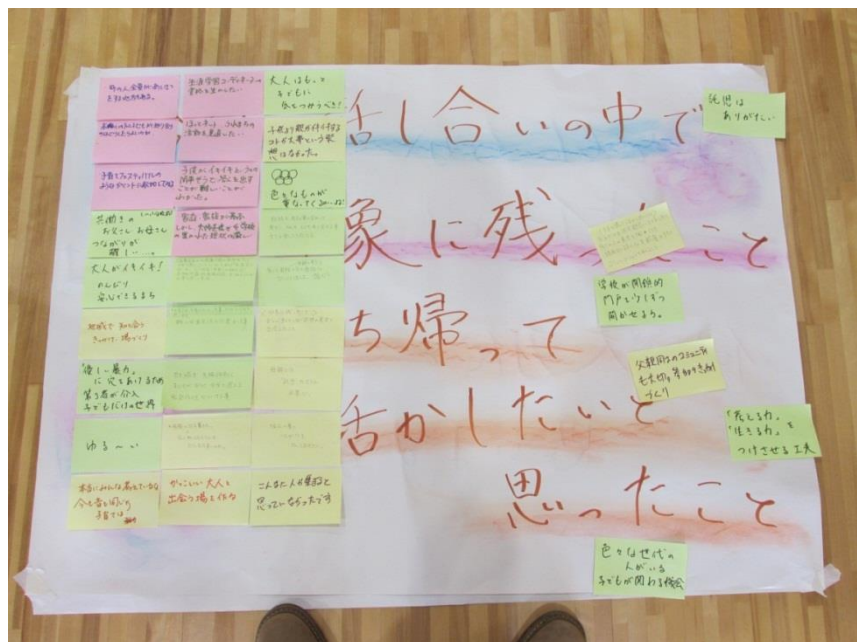
(5)本日の会合について

- まちづくりに関心を持っているかたが多くいらしたこと
- 予想以上に活発な会話がなされて驚いた
- 子ども達のことを真剣に考えている人たちがこんなにたくさんいるということがなんだか嬉しかった！
- 大人の遊び場、こうした機会は、今後とも設けるべき
- 託児のおかげでシングルマザーが参加できる

(6)特に印象に残ったことを発表

- 町の人全員があいさつをする地方もある
- 高齢の方と子どもが知り合うのは、どうしたらよいのか
- 子育てフェスティバルのようなイベントに参加してみる
- 小学校前の共働きのお父さん、お母さん、つながりが難しい。
- 大人がイキイキ、のんびり、安心できるまち
- 地域で知り合うきっかけ、場づくり
- やさしい暴力に穴をあけるため、第三者が介入する、子どもだけの世界
- ゆる～い
- 本当に皆考えているな
- 今も昔も子育ては同じ
- 生涯学習コーディネーターの資格を生かしたい
- ホットネット、ふれまちの活動を見直したい
- 子どもがイキイキと、というのは、簡単そうで答えを出すことが難しいことが分かった
- 家庭、家族が基本、しかし、夫婦共稼ぎや学校の置かれた現状は厳しい
- 西東京市の子ども達（特に社会生活に不安を感じている）に的を絞り、①問題点の洗い出し、②現状（実態）の確認、③具体的対策、④展開日程を描くことが必要と思いました。
- 西東京市全体にとって、大事、大切なテーマだと思います。
- 若者の就業状況の改善が大事
- 引き続き、夫婦仲良く、子どもが安心安全と思える家庭づくりを心掛けること
- 情報の伝え方→広く知ってもらうにはどうしたら良いのか。
- カッコ良い大人と出会う場をつくる

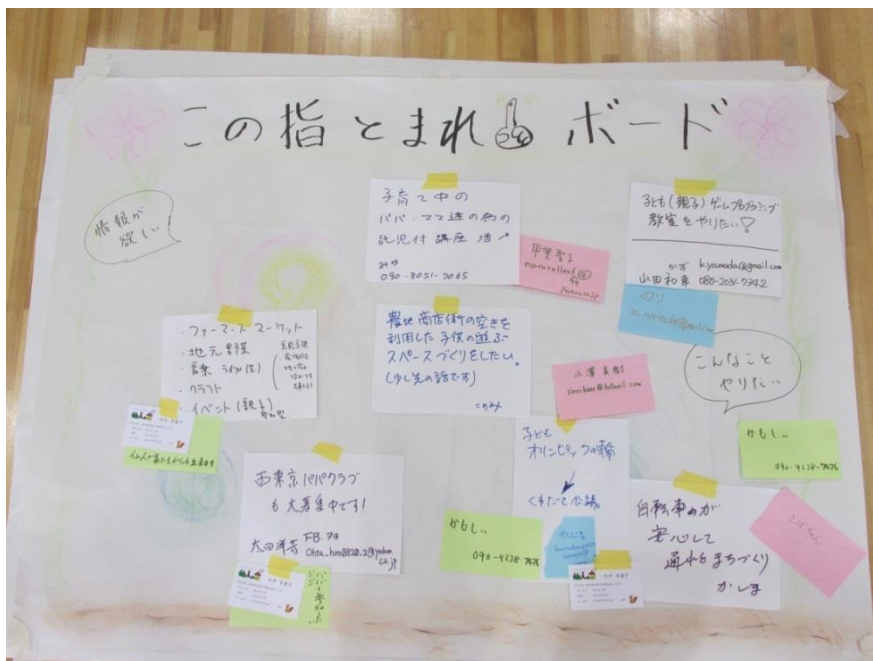
- 大人が子どもにもっと気を使うべき
- 子どもより親がイキイキすることが大事という発想はなかった
- いろいろなものが重なってくるといいね
- 引き続き、自分の夢に向かって努力し、それを子ども達に見せる事、生きるたのしさを伝える
- 多くの年齢の異なる男性の方の参加にびっくりしました（感心）
- （印象に残ったこと）自分が考えもしなかった発想の意見と出会えたこと
- 母親には託児サービスが必要だ
- 幅広い層のつながりを作ってあげたい。
- こんなに人が集まるとは思っていなかったです。
- 持ち帰って活かしたいこと）自分だけの固定観念に止まらずに、多くの人の意見を聞くこと、積極的に様々な年齢層の方々とコミュニケーションをとること。
- 学校が閉鎖的、門戸を少しずつひらかせよう。
- 父親同士のコミュニティも大切。参加のきっかけづくり。
- 「考える力」「生きる力」をつけさせる工夫
- いろいろな世代の人がいる子どもが関わる機会
- 託児はありがたい



⑦ この指とまれ

今日の話のなかで、自分がこれからやりたいと思うことが浮かんだ人は、新たに紙に書いて、全員に見える場所に貼り付け、一緒にやってくれる人を募った。

- 子育て中のパパ・ママ達のための託児付き講座を増やす【みゆ】+甲斐聖子
- 子ども（親子）ゲーム・プログラミング教室をやりたい！【山田和幸】+のり
- 自転車が安心して通れるまちづくり【かしま】+こぼちゃん、かもしい
- 子どもオリンピックの輪→企て会議【瀬戸島】+かもしい、仙人の家、小澤美樹
- 西東京パパクラブも大募集中です！【太田洋芳】+仙人の家「ジジ・ババも参加したい」
- ファーマーズ・マーケット、地元野菜、音楽ライブ、クラフト、イベント（親子参加型）、意見交換（家族同志、地域のつながりを大事にする）【甲斐】+仙人の家「ここでもイベントできます」
- 農地、商店街の空きを利用した子どもの遊ぶスペースづくりをしたい【少し先です・このみ】



⑧ 交流会

三々五々、話し合いが続きました。

⑨ アンケート（別紙）

- 多くの皆さんの感想としては、普段の生活では、絶対に会えない、多様な年代の方々と話し合えたことがとても刺激的だったというものでした。
- テーマを変えつつ、連続して行いたいという主催者のアナウンスに対しては、次回もまた参加してみたいという大変前向きなご意見を頂戴できました。

当日のスナップ写真（時間は前後しています）

記録保存用写真は、しばらくの間以下にあります。

<https://www.dropbox.com/sh/wkf6232honc06aw/mqNAP89TBI>

